

【人生の添乗員 (R)】からのワンポイントメッセージ

老後の準備をするのに忘れてはいけないこと

発行者：牧野 F P 事務所合同会社 代表社員 牧野寿和

牧野 F P 事務所 公式サイト：<https://www.makino-fp.com>

<第 350 号の目次>

■ 今週のテーマ

老後の準備をするのに忘れてはいけないこと

■ 「人生の添乗員 (R)」からのワンポイントメッセージ

■ 「人生の添乗員 (R)」牧野寿和のプロフィール

■ 編集後記

それでは、

今週のテーマからはじめます。

***~

■ 今週のテーマ

老後の準備をするのに忘れてはいけないこと

***~

今回は、特にご夫婦の方に向けて、

よくご相談に見えた方がお話しになる、

老後の準備をするときに忘れがちな

でも、忘れてはいけないことを
お伝えいたします。

老後の生活を描くということは

定年退職を控えたサラリーマンの方で、
老後の生活の準備の相談というと、

すでに、老後の生活を描いていて、
そのなかで、
特に家計収支の面でのシミュレーションの相談、

退職金をどのように運用したらよいかの相談、

住宅ローンの返済が残っている方の中には、
退職金のうちいくら位繰り上げ返済に、
または完済してよいかの相談、

中には
漠然と老後の生活はどうしたらよいかといった相談、

など、様々な相談をお受けすることがあります。

そこで、思うことがあります。

確かに会社などに勤務をして見える方は、
経営者の方の方をはじめ、
長年勤めて見れば、
会社の将来を決める決断をすることもあり、
そのための予算を組むこともあるでしょう。

同じようなことを、
退職後の家計でもすることが必要です。

老後の生活は、
お金の出し入れから始まり、
すべてのことをご自身またはご夫婦で
決めることが必要なのです。

いい加減に決めては、

家計収支に影響を与える
生活が困窮してしまうかもしれません。

つまり、現役の収入と
老後の年金収入を中心とした生活は、

家計の収入に変化があり、
家計の支出には変化ない。

少なくともこの認識を持って、
老後の生活を描く必要があります。

老後の生活を描くのは時間がかかる

また、具体的な老後の生活を描くのは誰でしょう？

言わずと知れたご本人です。

ご夫婦であれば、
ご主人と奥様です。

老後の生活の素案を創る段階で、
少なくとも3種類の案が必要です。

ご主人の案
奥様の案

私が、FP業務で今後の生活を描く「人生の行程表」を
ご夫婦に個々に書いていただくとき、

ご夫婦とも同じような、
「人生の行程表」を描くことは皆無です。

そこで、必要となってくるのが、

ここに作成したご夫婦個々の「人生の行程表」を尊重しながら、
ご夫婦が一緒に作る
3つ目の案です。

従って、作成するのにご夫婦の間で、
話し合いの時間が必要で、
作成まで時間がかかるのです。

現役中は、忙しいのでリタイアしてから考える。
といわれる方が見えます

しかし、
リタイアしてから考え始めては、

折角、第二の人生である
老後の生活の半分は過ぎてしまい、

年金収入と貯蓄の取り崩しの家計支出を
目のあたりにすると、
「人生の行程表」を描くどころでは
なくなってしまう家庭もあります。

個々の通帳のことで考えておく

特に、共働きのご夫婦で、
家計用の銀行口座と
ご夫婦別々の銀行口座をお持ちの場合など、
家計収支を一本にして見えないご家庭では、

現役中にご夫婦で話し合って、
取り決めておいていただきたいことがあります。

それは、老後の生活でも、
共に現役中の収入があればよいのですが、

多くのご家庭では、
老後の生活にはいると、

年金収入は現役時代より減り、
現役時代の生活を維持していくためには、
お互いの年金を合算して、
家計を維持するという現実があります。

極端な考えとはなりませんが、

現役中は、個々の銀行口座に入る収入を
必要な分だけ家計の口座に入れれば、
生活は成り立っていたかもしれません。

しかし、老後の生活では、
現役中と同じような収入の管理や使い方で
生活をしていくのは、
収入の額から難しいでしょう。

また、共働きの夫婦でなくとも
年金は個々人の口座に入金されます。

老後の生活の家計収支にかかわる問題ですので、
ここは現役中にざっくりばらんに
ご夫婦で話し合っって円滑な
老後の生活ができるようにしていくことが大切です。

一人で決めることはない

ここまでお読みになって、
少し大袈裟ではない、
と、思われる方もみえるでしょう。

ただ、
わたくしのところに、
老後の生活に入ってから、
相談に見える方の中には、

残念ですが、
もっと早くから話し合っってあっていれば、
別れることはなかった（熟年離婚）。

ご主人が、年金を自分だけのお金と勘違っして
家計に入れなかつたために、
家計が困窮状態になつてしまった。

現役中ならリカバリーも可能でしょうが、
現役時代の何分の1になつた年金収入で、
家計の立て直しは、
現実的に難しいです。

このように、老後の準備をするのに必要なことは、
まず、ご夫婦で話し合っ、

老後の生活資金の移動がスムーズにできる、
家庭の掟を準備しておくことです。

*****:
■「人生の添乗員 (R)」からのワンポイントメッセージ
*****:

老後もご夫婦楽しく生活するには、
率直な意見の交換をしながら
その準備が必要です

*****:
■人生の添乗員 (R) 牧野寿和のプロフィール
*****:

日本で唯一「人生の添乗員 (R)」を名乗れる
公正中立な独立系ファイナンシャルプランナー
開業 16 年目

1958 年 名古屋市生まれ、大学（東海大学卒業）以外は、名古屋で生活をする。

1982 年～2001 年 旅行会社に勤務。業務で世界各地を廻っていた時、
日本の方と他の国の方々のお金との付き合い方の違いを感じていた。
そんな時渡米した折に、初めてファイナンシャルプランナーの存在を知り、
日本でもこの業務の必要性を認識する。

2003 年 牧野 FP 事務所を創業。
2018 年から牧野 F P 事務所合同会社を設立。

これまでに、延べ 900 件以上の様々な相談に対応。

現在は、相談者へのプランニングの助言と提案を主な業務とし、

相談者に、安心できる生活が送れるように、

丁寧な業務を心がけている。

<保有資格>

- ・ NPO 法人日本ファイナンシャルプランナーズ (FP) 協会 CFP (R) 認定者
- ・ 1 級ファイナンシャル・プランニング技能士 (資産設計提案業務)
- ・ 福祉住環境コーディネーター
- ・ 総合旅行業務取扱管理者 など

<取材協力>

メ〜テレ (名古屋テレビ) 「UP!」

<出版>

「銀行も不動産屋も絶対教えてくれない! 頭金ゼロでムリなく家を買う方法」河出書房新社

なぜ、「人生の添乗員 (R)」なのか?

詳しいプロフィールはこちらから

http://www.makino-fp.com/documents/fpmakino_009.pdf

現在、相談を受けている方は、名古屋市内はもとより
愛知、岐阜、三重県、
ご紹介をいただいて、首都圏や関西にも
足を延ばす機会が増えてきました。

「人生の添乗員 (R)」どこまでも行きます。

相談者にとって、他人を気にすることなく、
ご自身にとって
有益な提案を心がけています。

■編集後記

ご主人が年金を毎月いくらもらっているか
ご存じない奥さんがみえました。

そんなことあるの?

と思う方。

当然だと思う方。

共にみえるでしょう。

本当に家庭には、
様々な考え方があるようです。

【人生の添乗員(R)】からのワンポイントメッセージ

来週もご愛読のほど、
よろしくお願い申し上げます。

「人生の添乗員」「人生の行程表」は牧野寿和の登録商標です

■ 【人生の添乗員(R)】からのワンポイントメッセージ

発行：

牧野FP事務所合同会社 代表社員 牧野寿和
〒467-0823 名古屋市瑞穂区津賀田町2-86

■登録・解除は、ご自身でお願いいたします。
こちらから出来ます。

<http://www.mag2.com/m/0001575058.html>

■本メルマガに関するご意見・お問い合わせはこちらまで
お願いいたします

E-MAIL : makino.fp@beach.ocn.ne.jp

牧野FP事務所合同会社 公式サイト : <https://www.makino-fp.com>

■記事内容に関してのトラブル等について当方では一切責任を負いかねます。
ご自身の責任でご判断下さい。
